

# 特別支援学級（知的） 社会科学学習指導案

期 日 令和3年2月22日（月）5校時

場 所 学校図書館

授業者 教科担当教諭

学校司書

支援員

1 単元名 学校周辺の地図を作り、その変化を調べよう

2 単元の目標

身近な地域の地図を作成することにより町の様子をつかむと共に、定点観察や立体紙芝居の作成を通して、季節による土地の利用や環境の変化の様子を捉え、表現する。

（特別支援学校中学部1段階 社会科内容 オー(ア)ーア、イ）

3 単元設定の理由

(1) 生徒について

（略）

(2) 単元について

本学級の生徒は、特別支援学校中学部1段階を参考にして学習している。本単元は、特別支援学校教育要領社会科編の内容オ(ア)に基づき、「身近な地域の地図を作成することにより町の様子をつかむと共に、定点観察や立体紙芝居の作成を通して、季節による土地の利用や環境の変化の様子を捉え、表現する。」ことをねらいとしている。

前単元「梅干しをつくろう」では、実際に梅干しをつくり販売するなどの活動を通して、生産と人々の暮らしに目を向けてきた。本単元では、身近な地域の地図の作成を通して、さらに身近な地域の様子を捉えさせたいと考えている。

本単元は、学習活動により3つの段階（第1次～第3次）に分けて構成している。まず第1次が定点観察活動である。学校の周囲の土地利用や環境の変化を定期的に観察する定点観察は、1年間の長いスパンの中で粘り強く調査をする意欲を培い、その中で生徒自身が土地利用や環境の変化を発見することにより達成感を得られる学習である。

第2次は地図の作成である。社会科における地図の作成は、縮尺の意味から学び、教室を始めとする校舎、そして地域に出かけて調査することにより、広い対象物をノートに収める資料活用の技法を学ぶ手段として有効である。今年はICT環境も整備され、自分が書いた地図の出来をGoogleEarthで確認することもできるようになり更に意欲を高めることができている。

第3次は、これら2つの学習を結びつけまとめる活動である。立体紙芝居4面に正確に地図を書かせ、そこに土地利用や環境の変化を絵でまとめることにより、1年間の学習の総決算となり、達成感を得られると考えている。

### (3) 指導にあたって

本時では、自分で選んだ定点について、環境や動植物に関する選んだ情報を立体紙芝居に描き込む活動を行う。描く際に学校司書にいくつかの資料を選定してもらい参考にする。普段より、特別支援学級の社会科では、学校司書とともに教材の改良や、授業方法について意見を交わしながら進めてきた。今回の授業でも、次年度を見据え、学校司書の関わりを「図書の選定」のみでなく「情報の選択」に関わる支援に広げた形で行う。立体紙芝居は、地図を同じ位置に描くことによって四季の変化を視覚的にとらえる面で優れている。生徒はこの3年間、図書館で学校司書の協力を得ながら、図書を活用した学習を重ねている。生徒には、この1年間の活動を振り返らせ、図鑑等を利用し、丁寧に形や色を描かせたい。活動では前時までに書かれた台紙上の地図に図鑑を基に絵を描かせる。(中略)立体紙芝居は、4面にわたって地図が動かず、観察物の変化のみ強調できること、また季節に連続性があることを示すことができる長所がある。この活動を通じ、校地周辺の様子を視覚的に捉えさせるとともに、土地の利用や校地周辺の四季の変化について、立体紙芝居を通して丁寧に表現させたい。

## 4 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容が分かり、意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>地図の作成や定点観察を通して、地図に親しみ、地域への関心を高めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定点観察で集めた情報を比較し、土地利用や環境の変化について考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縮尺を考えながら、調べたことを地図にまとめている。</li> <li>土地利用や環境の変化について資料を使って調べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の土地利用や環境の変化について理解している。</li> </ul>

## 5 単元計画

次	時	主な学習活動
1	6	近隣地の土地の様子や産業、環境を定点で調査する。(およそ2ヶ月に1回、計6回)
2	6	縮尺計算を行い校舎内及び校地近隣の地図を作る。(地図作り)
	2	近隣地の土地利用を調べ、地図に示す。
3	2	立体紙芝居の4面に、まとめを行う地域の地図を正確に書く。
	2	立体紙芝居の4面に、土地利用の変化や、環境の変化について図書を使用しまとめ、発表する。(本時1/2)

6 本時の学習

(1) ねらい

○ 季節による土地の利用や環境の変化の様子を図書資料を使用し立体紙芝居上に表現する。

(2) 展開

学 習 活 動	教師の支援 (●) 略、司書・支援員の支援 (■) 略、評価		
	A	B	C
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動の内容や目標を知る。</li> <li>本時の流れや手順を確認する。</li> <li>事前に準備してある図鑑から情報を得て、絵を描く。土台の仕上がりが悪い場合は、ハサミで調整する。</li> <li>描いた動植物の生息できる環境について知り、見出しを決定する。</li> </ul>	めあて 図書資料を使って立体紙芝居を完成させよう		
	●	●	●
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の振り返りをする。</li> <li>次時の予告をする。</li> </ul>	●	●	●
	●	●	●
<p>&lt;評価&gt; 【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定点観察や図書資料で集めた情報をもとに、土地利用や環境の変化について考え、立体紙芝居上に表現している。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(活動や様子の観察)</p>			

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される生徒の具体的な姿	おおむね満足できると判断される生徒の具体的な姿	支援を要する児童への手立て
定点観察で得た情報と、図書資料で得た情報を関連付けて、土地利用や環境の変化を捉え、効果的に表現している。	定点観察や図書資料で集めた情報をもとに、土地利用や環境の変化について考え、表現している。	(略)

(4) 授業研究の視点

- 立体紙芝居は、生徒の意欲を高める上で適切であったか。
- 学校司書の準備した資料は、生徒が表現する上で有効であったか。

## 7 研究協議の概要

参加者	校内 20名、校外 25名 計 45名
授業及び研究協議の概要	<p>◎ 授業          定点観察や図書資料で集めた情報をもとに、土地利用や環境の変化について考え、立体紙芝居上に表現した。</p> <p>◎ 研究協議</p> <p>1 グループ協議          (参考になったこと、今後活かせることを中心に協議)</p> <p>2 全体会での発言 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネバーエンディングカード (立体紙芝居) のアイデアがとてもよかった。四季の表現に合っている。生徒にとって魅力的で、ゴールが明確に示せ、達成感のある成果物である。</li> <li>・学校司書の準備がとても丁寧 (生徒個々に対応した資料の準備) で、T1との連携がよかった。</li> </ul> <p>3 指導助言</p> <p>○特別支援の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の今まで特別支援学級の社会に関わってきた6年間の積み上げが見える良い授業だった。</li> <li>・「ねらいが明確であること」「流れが分かること」「三人の連携」が今日の成功の鍵だと思う。</li> <li>・知的学級の授業を任された教科の先生には、「指導要領の内容」「生徒の興味関心」「経験」をふまえて授業づくりに取り組んでもらいたい。(特別支援学校指導要領は各教科でダウンロード可能)</li> </ul> <p>○社会科の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校指導要領の単元のねらいを明確におさえて年間計画を作成していて良い。(活動として挙げている梅干し作りやキムチ作りは、指導要領 社会の内容エ・カに該当する。)</li> <li>・今回の単元では、どこに何がどのように広がっているかを学ぶことで生徒の視野を広げることができる。また、地図の技能を身につけてもらいたいので、系統的な指導が大切である。</li> <li>・フィールドワークをしてから地図に落とす作業をすることで、具体的イメージを持って地図を見ることができる。これによってそのうち、地図を見て具体をイメージすることができるようになる。</li> <li>・今後、通学路などでこの作業を繰り返すことで成長し、地域を捉える視点を広げることができる。</li> <li>・完成したネバーエンディングカード (立体紙芝居) をお互い見せ合い、良さを見つけさせるとよい。</li> </ul> <p>○図書館教育の視点から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に図書館を利用して良い。</li> <li>・必要なときに資料を使う力を身につけさせるためには、くり返しの経験が必要である。</li> <li>・ねらいが変われば使い方や活用が変わるので、図鑑は今回のような授業に限らず用いてもらえる。</li> <li>・絵が苦手な生徒はコピーして出典を書かせるという手もある。</li> <li>・学校司書との交流が授業を変えるチャンスである。</li> <li>・学校司書の準備物は必ず目を通し、適しているかチェックしてほしい。(特に古い書籍の場合や、特定の言葉に敏感な生徒への配慮を要するとき)</li> <li>・学校で揃えるには高価な本や資料、道具はぜひ図書館で借りてほしい。</li> <li>・個々に目を向けた授業を作ろうとする姿勢が資料選びの手助けになる。</li> </ul>